

国民民主党は政府の予算案に反対しました。

理由① 統計不正が前提の予算

- 雇用、給与、労働時間の変動を示す「毎月勤労統計調査」で、2018年の実質賃金が大幅に上がったように偽装されていました。
- 「家計調査」も、調査手法の変更で、家計収支が上向いているかのように水増しされていました。
- 実質賃金は低下、GDPの民間最終消費支出は横ばい等、「アベノミクス」は6年経っても成果が出ていません。

統計不正は正されていません。
数字の根拠が誤っている予算案に賛成はできません。

理由② 欠陥だらけの消費税引き上げ対策

- 消費税率引き上げ対策の目玉、ポイント還元や軽減税率は、欠陥だらけの愚策です。制度がわかりにくいうえ、低所得者よりも高所得者に恩恵が偏っています。
(⇒富裕層がクレジットカードで高価な絵画を買っても還元？ 消費者の未使用ポイント分の補助金は業者のもらい得？ ポイント還元競争が起きデフレが深刻化？)

理由③ 例を見ない大盤振る舞い

- 防災・減災対策などは必要ですが、真に必要な施策に絞ることなく、大盤振る舞いをし、公共事業費は近年例を見ない15%超増、防衛費は過去最大を計上しています。その結果、歳出は101.5兆円と過去最大になっています。
- 未だに30兆円を超える国債を発行しています。

消費税率を引き上げながら、
大盤振る舞いの予算は認められません。

つくろう、
新しい答え。

